(98.6%) であった。

③青信号

横断歩道を渡る際に青信号で渡ると答えた者は、指導前は 142 名 (97.3%) で、指導後も 142 名 (97.3%) で変化はみられなかった。指導 1 カ月後は 144 名 (98.6%) であった。

④すべり台での遊び

すべり台で遊ぶ際に順番を待って押し合わずに遊ぶと正しい答えの子どもは指導前が 118 名 (80.8%)、であったが、指導後には 141 (96.6%) と有意に増加していた。指導 1 カ月後は 140 名 (95.9%) であった。

⑤ブランコ遊び

ブランコ遊び方について正しい答えは指導前が 138 名 (94.5%)、指導後は 143 名 (97.9%) と指導前より多くの子どもが理解していた。指導 1 カ月後は 142 名 (97.3%) であった。

⑥ボール遊び

ボール遊びの際にボールを追って道路に飛び出してはいけないことを正しく理解した子どもは指導前 134 名 (91.8%)、指導後は 135 名 (92.5%) と指導前より理解していた。指導 1 カ月後は 143 名 (97.9%) であった。

⑦川での水遊び

川で水遊びをする時、子どもだけではなく大人と一緒に行くと正しく答えられた子どもは、指導前が 122 名 (83.6%)、指導後が 141 名 (96.6%) で、有意に増加していた。指導 1 カ月後は 143 名 (97.9%) であった。

⑧ベランダで遊ぶ時

ベランダで遊ぶ時、植木鉢に登ってはいけないことを理解できていたのは、指導前が 141 名 (96.6%)、指導後が 143 名 (97.9%) で指導前より理解していた。指導 1 カ月後は 140 名 (95.9%) で、若干減少していた。

⑨おやつを食べる時

おやつを食べる時、フォークをくわえて歩きまわることがいけないと理解している子どもは、指導前が 138 名 (94.5%)、指導後が 140 名 (95.9%) と若干増加しているものの、多くの子どもは理解し、指導 1 カ月後は 145 名 (99.3%) であった。

⑩火遊び

火遊びがいけないことを正しく答えた子どもは、指導前 138 名 (94.5%)、指導後には 144 名 (98.6%) と増加し、指導 1 カ月後も 144 名 (98.6%) であった。

⑪パジャマに火がついたとき

パジャマに火がついたときにゴロゴロして火を消すと正しい答えをした子どもは、指導前 60 名 (41.1%) のみであったが、指導後には 133 名 (91.1%) と大部分の子どもが理解できていたし、指導 1 カ月後は 136 名 (93.2%) であった。

4. 5歳児クラスの結果

5 歳児クラスでは指導前と指導後で有意に増加した項目は、車に乗るときで 175 名中 156 名 (90.2%) が 170 名 (98.3%)、すべり台での遊びが 139 名 (80.3%) が 168 名 (97.1%)、水遊びが 159 名 (91.9%) が 169 名 (97.1%)、火遊びが 164 名 (94.8%) が 172 名 (99.4%)、パジャマに火がついた時が 80 名 (46.2%) が 161 名 (93.1%) に増加していた。

指導後においてパジャマに火がついた時の 93.1%以外は全ての項目で 95%以上の子どもが正しい解答をしていた (表 4)。

5. 全体の結果

①車に乗るとき

3・4・5 歳児クラス全体でみてみると、正しく理解した子どもは 450 名中、指導前が 371 名 (82.4%)、不正解が 70 名 (15.6%)、不明が 9 名 (2.0%) であった (表 5)。

指導後の正解者は 429 名 (95.3%)、不正解が 15 名 (3.3%)、不明が 6 名 (1.3%) であった。

指導 1 カ月後の正解者は 438 名 (97.3%)、不正解が 5 名 (1.1%)、不明が 7 名 (1.6%) であった。

②横断歩道

指導前の正解者は 418 名 (92.9%)、不正解が 21 名 (4.7%)、不明が 11 名 (2.4%) であった。

指導後の正解者は 433 名 (96.2%)、不正解が 10 名 (2.2%)、不明が 7 名 (1.6%) であった。

指導 1 カ月後の正解者は 435 名 (96.7%) 不正解が 7 名 (1.6%)、不明が 8 名 (1.8%) であった。

③青信号

指導前の正解者は 423 名 (94.0%)、不正解が 21 名 (4.7%)、不明が 6 名 (1.3%) であった。

指導後の正解者は 438 名 (97.3%)、不正解が 8 名 (1.8%)、不明が 4 名 (0.9%) であった。

指導 1 カ月後の正解者は 436 名 (96.9%)、不正解が 8 名 (1.8%)、不明が 6 名 (1.3%) であった。

④すべり台

指導前の正解者は 334 名 (74.2%)、不正解が 102 名 (22.7%)、不明が 14 名 (3.1%) であった。

指導後の正解者は 416 名 (92.4%)、不正解が

26名（5.8%）で、不明が8名（1.8%）であった。

指導1カ月後の正解者は419名（93.1%）、不正解が25名（5.6%）、不明が6名（1.3%）であった。

⑤ブランコ

指導前の正解者は401名（89.1%）、不正解が40名（8.9%）、不明が9名（2.0%）であった。

指導後の正解者は427名（94.9%）、不正解が16名（3.6%）、不明が7名（1.6%）であった。

指導1カ月後の正解者は431名（95.8%）、不正解が12名（2.7%）、不明が7名（1.6%）であった。

⑥ボール遊び

指導前の正解者は383名（85.1%）、不正解が54名（12.0%）、不明が13名（2.9%）であった。

指導後の正解者は420名（93.3%）、不正解が22名（4.9%）、不明が8名（1.8%）であった。

指導1カ月後の正解者は433名（96.2%）、不正解は11名（2.4%）、不明が6名（1.3%）であった。

⑦水遊び

指導前の正解者は375名（83.3%）、不正解が50名（11.1%）、不明が25名（5.6%）であった。

指導後の正解者は426名（94.7%）、不正解が12名（2.7%）、不明が12名（2.7%）であった。

指導1カ月後の正解者は432名（96.0%）、不正解が8名（1.8%）、不明が10名（2.2%）であった。

⑧ベランダ

指導前の正解者は429名（95.3%）、不正解が14名（3.1%）、不明が7名（1.6%）であった。

指導後の正解者は437名（97.1%）、不正解が7名（1.6%）、不明が6名（1.3%）であった。

指導1カ月後の正解者は435名（96.7%）、不正解が7名（1.6%）、不明が8名（1.8%）であった。

⑨おやつを食べるとき

指導前の正解者は398名（88.4%）、不正解が40名（8.9%）、不明が12名（2.7%）であった。

指導後の正解者は424名（94.2%）、不正解が20名（4.4%）、不明が6名（1.3%）であった。

指導1カ月後の正解者は434名（96.4%）、不正解が9名（2.0%）、不明が7名（1.6%）であった。

⑩火遊び

指導前の正解者は403名（89.6%）、不正解が34名（7.6%）、不明が13名（2.9%）であった。

指導後の正解者は430名（95.6%）、不正解が14名（3.1%）、不明が6名（1.3%）であった。

指導1カ月後の正解者は433名（96.2%）、不正解が12名（2.7%）、不明が5名（1.1%）であった。

⑪パジャマに火がついたとき

パジャマに火がついたときの対応については、指導前の正解者は197名（43.8%）、不正解が221名（49.1%）、不明が32名（7.1%）であった。

指導後の正解者は405名（90.0%）、不正解が33名（7.3%）、不明が12名（2.7%）であった。

指導1カ月後の正解者は410名（91.1%）、不正解が23名（5.1%）、不明が17名（3.8%）であった。

⑫熱いもの（カップラーメン・やかん・ストーブ・ガスコンロ・アイロン・ポットとカップ）

8枚の絵の中から熱いものを選ぶについて、指導前の正解者はカップラーメンが413名（91.8%）、やかんが416名（92.4%）、ストーブが404名（89.8%）、ガスコンロが430名（95.6%）、アイロンが409名（90.9%）、ポットとカップが407名（90.4%）であった。

指導後の正解者はカップラーメンが433名（96.2%）、やかんが440名（97.8%）、ストーブが433名（96.2%）、ガスコンロが439名（97.6%）、アイロンが428名（95.1%）、ポットとカップが432名（96.0%）であった。

指導1カ月後の正解者はカップラーメンが440名（97.8%）、やかんが440名（97.8%）、ストーブが437名（97.1%）、ガスコンロが441名（98.0%）、アイロンが434名（96.4%）、ポットとカップが430名（95.6%）であった。

6．指導した保育士の考え

1）保育士の経験年数

安全教育の冊子を使用し指導を実施した保育士の回答者数は35名で、その経験年数は4年未満が8名（22.9%）、5～9年が10名（28.6%）、10～14年が6名（17.1%）、15～19年が2名（5.7%）、20～24年が6名（17.1%）、25年以上が2名（5.7%）不明が1名であった。

2）子どもの安全教育に関する興味

安全教育に子どもは興味を持って取り組めていたかでは、3歳児クラスを指導したものでは、大変興味があったと答えた者は12名中4名（33.3%）、興味があったが8名（66.6%）であった。

4歳児クラスを指導したものでは、大変興味があったと答えた者は15名中5名（33.3%）、興味が

あったが10名（66.6%）であった。

5歳児クラスを指導したものでは、大変興味があったと答えた者は14名中4名（28.6%）、興味があったが10名（71.4%）であった（表6）。

子どもが興味を持った点は、シールをはって選択することで、ゲームやクイズ感覚で楽しんでいたことや、絵本仕立てになっていて、ストーリーを聞いて楽しんだり、日常生活や身近にある内容だったことや、良い悪いを自分で判断することなどであった。

3）冊子による安全教育の指導のしやすさ

安全教育の指導は行いやすかったかの問いでは、3歳児クラスを指導したものでは、大変指導しやすかったと答えた者は1名（8.3%）、指導しやすかったが8名（66.6%）、指導しにくかったが2名（16.7%）であった。

4歳児クラスを指導したものでは、大変指導しやすかったと答えた者は1名（6.7%）、指導しやすかったが11名（73.3%）、指導しにくかったが3名（20.0%）であった。

5歳児クラスを指導したものでは、大変指導しやすかったと答えた者は3名（21.4%）、指導しやすかったが10名（71.4%）、指導しにくかったが1名（7.1%）であった（表7）。

指導のしやすさは、絵があってわかりやすく、対比して説明できたから、子どももよく絵を見ていたことや、子どもにわかりやすい説明の仕方が載っていたので伝えやすかったなどであった。

指導しにくかった点は、パジャマに火がついた時の指導がしにくかったことなどであった。

4）追加を望む指導項目

今回の指導項目以外に追加したほうがよい項目は、友達とのトラブル、引っかかない、押さない、割り込まない、知らない人について行かない、かさの扱い、おもちゃを持ってジャングルジムに乗らない、固定遊具の遊び方などがあげられていた。

5）冊子による安全教育の有効性

このような冊子による安全教育は子どもにとって有効であるかでは、有効であるが35名中28名（80.0%）、有効でないが1名（2.9%）、どちらともいえないが6名（17.1%）であった。

また、これらの安全教育を多くの園で行ったほうがよいかの問いでは、行ったほうがよいが22名（62.9%）、必要ないが1名（2.9%）どちらともいえないが12名（34.3%）であった。

D. 考察

事故による死亡はわが国の小児期の死因の第一位であることより、その防止は重要である。

事故防止のためには、子どもの周囲の環境の整備と安全教育が考えられる。

このため、北米では全米消防協会等が中心となり、Risk Watch という事故防止教育プログラムを通じて、子どもたちに安全教育を実施している。わが国においても、小学校においては安全指導などが行われているが、幼児への安全教育プログラムはほとんどみられない。

以上のことより、子どもに必要と思われる「車に乗るとき」「横断歩道」「青信号」「すべり台」「ブランコ」「ボール遊び」「水遊び」「ベランダでの遊び」「おやつを食べるとき」「火遊び」「パジャマに火がついたとき」の11項目に、「熱いもの」をくわえた全12項目について、2つの絵を見比べて「どちらが良い子かな」という質問をし、良いと思う方を選んでもらいシールを貼るという遊び感覚の安全教育プログラムを作成した。

この評価を明らかにするために、保育園の3歳児、4歳児、5歳児クラスの子どもたちに上記プログラムを実施し調査を行った。

3歳児では指導前と指導後で有意に正解が上昇したものは、「車に乗るときのシートベルトの着用」の93名71%の正解率が指導後121名92.4%に、「道路では横断歩道を渡る」の79.4%が92.4%に、「すべり台」の58.8%が81.7%に、「ブランコで遊ぶとき」の74.8%が87.8%に、「ボール遊び」の65.6%が87.8%に、「水遊び」の71.8%が88.5%に、「おやつを食べるときフォークは加えて歩かない」も71.8%が90.1%に「パジャマに火がついた時の消し方」43.5%から84.7%の項目であった。

また、指導後と指導1か月後ではすべての項目で有意差が見られず、正解率も冊子を家に持ち帰ったりしたので、繰り返し読んでいたのか正解率も上がっていることより、指導効果は持続していることが明らかになった。

4歳児では「車に乗るとき」「すべり台」「水遊び」「パジャマに火がついたとき」が有意に正解が上昇していたもので、他の項目は90%以上と最初から正解率が高かったため、有意差はなかった。

5歳児では有意に正解が上昇していたものが4歳と同じ項目であり、正解率も若干上がっていた。

今回の実施結果より、多くの子どもが指導後に正しい解答が増えており、本プログラムは効果的であると考えらた。特に、3歳児クラスでは正解率が多くの項目で有意に増加した事より、このプ

ログラムを行う最も適した年齢であると考えられた。しかし、4 歳児、5 歳児では指導前の段階ですでに理解している子どもが多くみられていたので、内容を再検討する必要があるが、この年齢では何度も繰り返し指導する方がより効果的とも思われ、指導年齢も保育園の 3 歳児クラス以上であれば、十分に本プログラムの方式による教育が可能であることが明らかになった。

今後この方式により、年齢別の冊子や、事故の種類ごと、1ヶ月ごと、季節ごとに行なえるような内容や、固定遊具での安全を多く取り入れたものなどの作成が考えられた。

実際に指導した保育士の感想では、この安全教育に子どもは大変興味を持って取り組めていたと保育士の 3 割が感じ、約 7 割が興味があったと答えていた。

今回の安全教育の指導を実施したのが約 10 園の保育園であり、3・4・5 歳は各クラス担任が 1・2 名であるため 41 件の回答数となっている。

子どもが興味を持った点は、シールを貼って選択することで、ゲームやクイズ感覚で楽しんでいたことや、絵本仕立てになっておりストーリーを聞いて楽しんだり、日常生活や身近にある内容だったことなどが挙げられていた。

指導のしやすさでは、絵があってわかりやすく、対比して説明できたから、子どももよく絵を見ていたことや、子どもにわかりやすい説明の仕方が載っていたので伝えやすかったなどであった。

指導がしにくかった点は、パジャマに火がついた時の指導で、保育士自身があまりなじみがないことで教えにくかったようであった。

今回の指導項目以外に追加したほうが良い項目は、友達とのトラブル・引っかかない・押さない・割り込まない・知らない人に付いていかない・かさの扱い・おもちゃを持ってジャングルジムに乗らないなどが挙げられてあり参考となった。

D. 結語

子どもの事故防止を行うためには①保護者や社会の子どもの事故防止への気配り、②子どもの周辺の環境整備③子どもへの安全教育が重要と考えられる。保育者への気配りについては既に健診用プログラムや保育園を情報発信し保護者への啓発プログラムが開発されている。また、子どもの周辺の環境整備を系統的に行う家庭内点検プログラムは昨年すでに家庭内点検の項目について検討した。

今年度、保育園の 3 歳児、4 歳児、5 歳児に冊子を利用した安全教育を実施し、この方式は効果的であることが明らかになった。この方式にて積極的に安全教育を実施すべきであり、安全教育外の様々な分野でも応用可能と考えられ、幼児教育の一つの教育方法になるものと考えられた。

E. 文献

1） 田中哲郎, 石井博子：幼児安全教育プログラムの試作, 厚生科学研究費補助金（子ども家庭総合研究事業）平成 13 年度子どもの事故とその防止に関する報告書, 551-563, 平成 14 年 3 月

図１　幼児安全教育プログラム

著作　国立保健医療科学院生涯保健部
田中哲郎

我が国の小児期において死亡原因の第一位は事故です。子どもの事故防止は子どもの周辺の危険を除くことが大切と考えられています。しかし、少し大きくなり活動範囲の広がった子ども達については、常に保護者が周りにいて注意していられませんので、子ども達自身が安全や危険について知り、危険を避けることを身に付けることが必要です。これらは生活の中で大部分は身につくとされていますが、世の中が複雑になりそれらの機会が少なくなっていることも考えられるので、子ども達に積極的に安全や危険を教えることが必要と考えられます。

以上のことより、子ども達に安全や危険を教え身に付けてもらい、少しでも子どもの事故を減らせるならばと考え教材を作成しましたのでご活用くだされば幸いです。

平成14年9月

国立保健医療科学院生涯保健部
田　中　哲　郎

教材の使い方

① 右側のページに2枚の絵がありますので、左のページの文を参考にしながら子ども達に問いかけ、どちらの絵のお友達が安全で良い子か考えてもらいます。

② 絵の下に星印と花印がありますので、安全で良いお友達の方に丸印やシールをはりましょう。

③ どうして、良いのか理由を聞いてみましょう。

④ 間違っていたり、理由がわからないときは説明してあげましょう。

各項目の正解

①右　②右　③右　④左　⑤左　⑥右　⑦右　⑧右　⑨左　⑩左　⑪左
⑫カップラーメン・やかん・ストーブ・ガスコンロとなべ・アイロン・ポットとカップ

1.車に乗るとき

今日は、おとうさんと楽しいドライブ。ミキちゃんは、車に乗ってお出かけです。
「さあ、準備オーライ！」

どうして？

「あれ～？どっちのミキちゃんがいい子かな？」

【チャイルドシートに座っているから。】

なぜチャイルドシートに乗るのがいいのかな？
【車が急に止まったときベルトをしていると、車の外にほうりだされないように守ってくれるから】

車に乗るときは、後ろの席に乗って、必ずチャイルドシートに座り、シートベルトをしましょう。
そして、窓から手や顔を出したり、ドアのカギをいじったりするのは、とっても危ないので、してはいけません。
「では、しゅっぱーつ！」

1

2

2.道路を渡るとき

「あっ、向こう側にいるのは太郎くんだ！」　太郎くんは道路を渡ろうとしています。
でも、道路には車がいっぱい走ってます。

どうして？

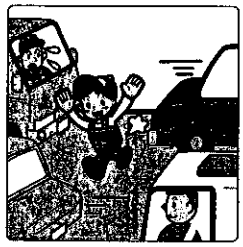
「どっちの太郎くんがいい子かな？」

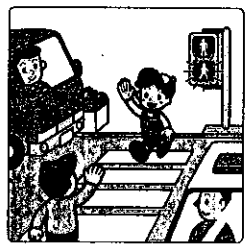
【横断歩道を渡っているから。】

どうして横断歩道を渡るのがいいのかな？
【横断歩道があるところでは、車が止まってくれたり、注意して走ってくれるから】

道路を渡るときはシマシマ模様の横断歩道を渡りましょう。
横断歩道は、渡る前に必ず立ち止まって、「車や大きなトラック、バイクや自転車に乗ったおにいさんが来ないかな？」と「右・左・右」と確認して、車がこなかったら、手を上げて、ふざけないで、すばやく渡りましょう。
「シマシマの横断歩道がないときはどうしよう？」
道路を渡るときは、必ず立ち止まって「右・左・右」と車が来ないのを確認してから、運転手さんからみんなが「渡ってますよー！」とわかるように手を上げて、すばやく渡りましょう。
でも、横断歩道がない道路は、おかあさんやおとうさんと一緒に渡ったほうがいいな。

3





4

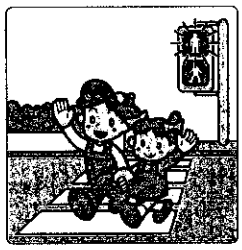
3.横断歩道を渡るとき

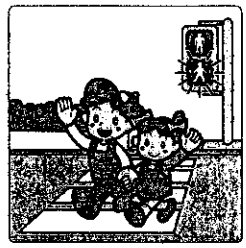
横断歩道はどういう時に渡ればいいのかな？　車が止まってくれるのかな？

どうして？「どっちの太郎くんとミキちゃんがいい子だと思う？」

【信号が青色のときに渡っているから。】
【手をあげているから。】

横断歩道の信号が赤色の時は、「止まれ」で渡ってはいけません。青色は、「わたってもいいよ、でも気をつけて渡ってね」のサインです。青色でも、「ピカピカ」点滅している時は渡りはじめてはいけません。
信号の色を良く見て、「右-左-右」と車が来ないのを確認して、手をあげて渡りましょう。





6　6

4.すべり台で遊ぶとき

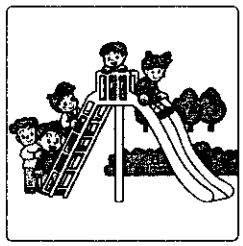
お友達が公園で遊んでいます。すべり台楽しそうですね。
でも、なんだか滑り台で遊ぶ時のお約束が守れていないお友達がいるみたい。

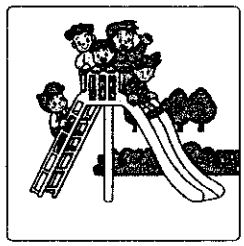
どうして？「どっちのお友達がお約束を守れているのかな？」

【滑る順番をきちんと待っているから。】
【滑っているお友達を押したりしてないから。】

右のお友達はどうしてだめなのかな？
【上にたくさんのぼっていて、狭い台から落ちそうだから。】
【滑っているお友達を押しそうだから。】

お友達を押したり、飛び降りたり、ひもをかけて遊んだり、おもちゃを持ちながら滑ったりしてはいけないんだよね。階段を登るときは、一段ずつ登ろうね。





7　8

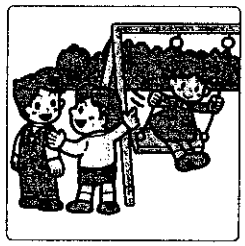
5.ブランコで遊ぶとき

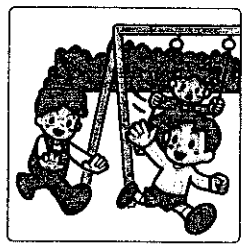
ブランコではミキちゃんが楽しそうに遊んでるよ。
近くに太郎くんと健太くんがやってきました。でも、ミキちゃんはブランコを勢いよくこいでます。

どうして？「ブランコの前では、どっちの太郎くんと健太くんがいいのかな？」

【ブランコの近くに行くとぶつかっちゃうから】
【順番を並んで待っているから】

ブランコの近くに行くと、勢いもどってきたブランコにぶつかってしまうから、気をつけようね。ブランコから急に飛び降りたりするのもやめようね。





9　10

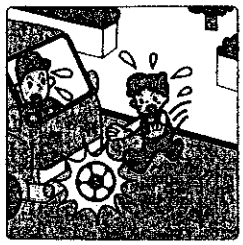
6.ボールが道路に出たとき

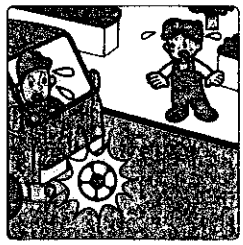
「あっ！サッカーボールが道路に転がって行っちゃった。」そこに車が…。

どうして？「どうしたらいいのかな？」

【道路には、絶対に飛び出しちゃいけないから。】
【車は急に止まれないから。】

ボールを追いかけるのに夢中になって、道路へ急に飛び出すのはとても危険です。ボールを取りに道路へ出るときは、必ずいったん止まって、右・左・右と車がこないのを確認してからにしましょう。
でも、道路や車のそばでは遊ばないのがいいな。





11　12

7.川で水遊びをするとき

太郎くん、川で何かつかまえてるみたい。何が取れるのかな？

(どうして?)「でも、池や川に行くときはどっちの太郎くんがいいのかな？」

【大人のひとと一緒だから】

左の太郎くんみたいに、お友達のミキちゃんとだけで遊びに行ってはだめだよ。
池や川のようなお水があるところに遊びに行くときは、必ず、大人のひとと一緒に行こうね。お水の中に落ちたとき助けてもらえません。ブクップクップクップとおぼれちゃうからとっても危険です。
もしも、川に落ちたり、おぼれているお友達がいたら、大人のひとにすぐに知らせましょう。

13

14

8.ベランダで遊ぶとき

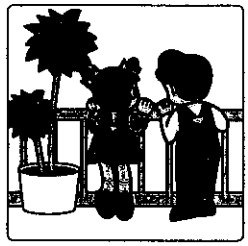
太郎くんのお家にミキちゃんが遊びにきています。これから健太くんも遊びにきます。
ベランダに出て待ってようよ。
「あっ！下の道路に健太くんがいるよ。健太くーん！」
ミキちゃんが健太くんを呼んでいます。

(どうして?)「どちらのミキちゃんがいいのかな？」

【植木鉢にのぼって外を見ては危ないから】
【柵から落ちてしまうから】

ベランダでは植木鉢や柵・おもちゃの車などを踏み台にして外や下をのぞきこむと、柵から落ちてしまうので、柵を登って外を見るのは絶対にやめようね。

15



16

9.おやつを食べるとき

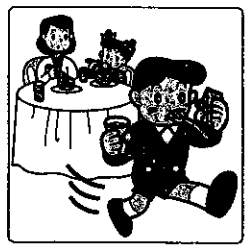
いちごのケーキとジュースおいしそう。
でも、太郎くんは健太くんのテーブルで一緒に食べようと歩き出しました。

(どうして?)「どっちの太郎くんがいいのかな？」

【フォークをくわえていると、転んだときに危ないから】

口の中にフォークやおはし・歯ブラシを入れて、歩いたり走り回ると、転んだときにのどをついてしまうのでやめようね。

17



18

10.火遊び

机の上にお父さんがいつも使っているライターとマッチがあります。
太郎くんは「ライターをつけてみようよ」と火をつけてみています。
ミキちゃんは「マッチをお母さんに渡さなくっちゃ」と渡しに行きました。

(どうして?)どっちがいい子かな？

【火遊びをしてはいけないから】

ライターやマッチに火をつけて遊ぶと、やけどをしたり、火事になってしまうことがあります。絶対に火遊びをしてはいけません。もし、火事になってしまったら、助けを呼びに行きましょう。

19

20

11.パジャマに火がついたとき

ミキちゃんと健太くんとたくさん遊んだから眠くなっちゃった。
うとうと…目をこすりながらストーブのそばにいると大変です。太郎くんストーブのそばにいたら、パジャマに火がついてしまいました。
あついよ～！あついよ～！

「太郎くんどうしたらいいのかな？」
「床にゴロゴロパジャマをこすりつけたほうがいいかな？」「ぴゅんぴゅん走り回ったほうがいいのかな？」
(どうして?)

【床にゴロゴロ転がると火が消えるから】

もしもパジャマや服に火がついてしまったときは、大きな声で「たすけて！」と助けを呼んでから、床にゴロゴロ転がってパジャマの火を消しましょう。パタパタたたいても消えます。

21

22

12.熱いものはどれかな？

この中で熱いものどれかな？
【カップラーメン・やかん・ストーブ・ガスコンロとなべ・アイロン・ポットとカップ】

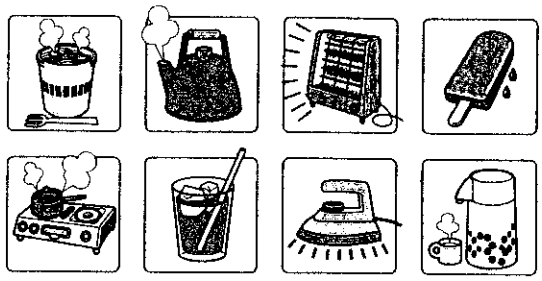
さわるとどうなるのかな？
【やけどをしてしまう】

ポットからお湯を注いだカップやカップラーメンはとても熱いです。こぼすことがないように気をつけましょう。カップラーメンはテーブルの高中において出来上がるのを待っていましょう。
ガスコンロにかかっているお鍋ややかんはとても熱いです。火を止めたばかりのコンロ、コンロからおろしたばかりのお鍋ややかんも熱いので、触らないようにしましょう。
お母さんが使い終わったばかりのアイロンを冷ますために置いてあることがあるけど、まだまだ熱いので触ってはいけません。
転んだときにストーブに手をついてしまいやけどをすることがあるので、ストーブは柵で囲ってもらってね。囲ってないストーブがあるところではふざけあいはしません。

冷たいアイスでも、アイスの棒をくわえたまま走り回ると、転んだとき棒でのどを突いてしまうから座って食べようね。
ジュースの氷は、ツルっとのどに入ってしまい詰まることがあるので、口に入れるときは注意しましょう。

やけどしてしまったらどうしたらいいのかな？
【水で冷やす】
【助けを呼ぶ】
すぐに、お水でいっぱい冷やして、お母さんに知らせてね。

23



24

表１　安全教育の評価結果

		指導前						指導後						指導1カ月後					
		正解		不正解		不明		正解		不正解		不明		正解		不正解		不明	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
車に乗るとき	総数	371	82.4	70	15.6	9	2.0	429	95.3	15	3.3	6	1.3	438	97.3	5	1.1	7	1.6
	3歳児	93	71.0	31	23.7	7	5.3	121	92.4	5	3.8	5	3.8	124	94.7	2	1.5	5	3.8
	4歳児	122	83.6	24	16.4	—	—	138	94.5	7	4.8	1	0.7	145	99.3	1	0.7	—	—
	5歳児	156	90.2	15	8.7	2	1.2	170	98.3	3	1.7	—	—	169	97.7	2	1.2	2	1.2
横断歩道	総数	418	92.9	21	4.7	11	2.4	433	96.2	10	2.2	7	1.6	435	96.7	7	1.6	8	1.8
	3歳児	104	79.4	18	13.7	9	6.9	121	92.4	4	3.1	6	4.6	122	93.1	3	2.3	6	4.6
	4歳児	143	97.9	2	1.4	1	0.7	139	95.2	6	4.1	1	0.7	144	98.6	2	1.4	—	—
	5歳児	171	98.8	1	0.6	1	0.6	173	100.0	—	—	—	—	169	97.7	2	1.2	2	1.2
青信号	総数	423	94.0	21	4.7	6	1.3	438	97.3	8	1.8	4	0.9	436	96.9	8	1.8	6	1.3
	3歳児	109	83.2	17	13.0	5	3.8	122	93.1	5	3.8	4	3.1	125	95.4	2	1.5	4	3.1
	4歳児	142	97.3	3	2.1	1	0.7	143	97.9	3	2.1	—	—	144	98.6	2	1.4	—	—
	5歳児	172	99.4	1	0.6	—	—	173	100.0	—	—	—	—	167	96.5	4	2.3	2	1.2
すべり台	総数	334	74.2	102	22.7	14	3.1	416	92.4	26	5.8	8	1.8	419	93.1	25	5.6	6	1.3
	3歳児	77	58.8	48	36.6	6	4.6	107	81.7	17	13.0	7	5.3	115	87.8	12	9.2	4	3.1
	4歳児	118	80.8	25	17.1	3	2.1	141	96.6	5	3.4	—	—	140	95.9	6	4.1	—	—
	5歳児	139	80.3	29	16.8	5	2.9	168	97.1	4	2.3	1	0.6	164	94.8	7	4.0	2	1.2
ブランコ	総数	401	89.1	40	8.9	9	2.0	427	94.9	16	3.6	7	1.6	431	95.8	12	2.7	7	1.6
	3歳児	98	74.8	26	19.8	7	5.3	115	87.8	11	8.4	5	3.8	121	92.4	5	3.8	5	3.8
	4歳児	138	94.5	8	5.5	—	—	143	97.9	2	1.4	1	0.7	142	97.3	4	2.7	—	—
	5歳児	165	95.4	6	3.5	2	1.2	169	97.7	3	1.7	1	0.6	168	97.1	3	1.7	2	1.2
ボール遊び	総数	383	85.1	54	12.0	13	2.9	420	93.3	22	4.9	8	1.8	433	96.2	11	2.4	6	1.3
	3歳児	86	65.6	36	27.5	9	6.9	115	87.8	11	8.4	5	3.8	123	93.9	4	3.1	4	3.1
	4歳児	134	91.8	10	6.8	2	1.4	135	92.5	9	6.2	2	1.4	143	97.9	3	2.1	—	—
	5歳児	163	94.2	8	4.6	2	1.2	170	98.3	2	1.2	1	0.6	167	96.5	4	2.3	2	1.2
水遊び	総数	375	83.3	50	11.1	25	5.6	426	94.7	12	2.7	12	2.7	432	96.0	8	1.8	10	2.2
	3歳児	94	71.8	23	17.6	14	10.7	116	88.5	8	6.1	7	5.3	121	92.4	3	2.3	7	5.3
	4歳児	122	83.6	19	13	5	3.4	141	96.6	2	1.4	3	2.1	143	97.9	2	1.4	1	0.7
	5歳児	159	91.9	8	4.6	6	3.5	169	97.7	2	1.2	2	1.2	168	97.1	3	1.7	2	1.2
ベランダ	総数	429	95.3	14	3.1	7	1.6	437	97.1	7	1.6	6	1.3	435	96.7	7	1.6	8	1.8
	3歳児	117	89.3	8	6.1	6	4.6	122	93.1	4	3.1	5	3.8	125	95.4	1	0.8	5	3.8
	4歳児	141	96.6	4	2.7	1	0.7	143	97.9	3	2.1	—	—	140	95.9	5	3.4	1	0.7
	5歳児	171	98.8	2	1.2	—	—	172	99.4	—	—	1	0.6	170	98.3	1	0.6	2	1.2
おやつ	総数	398	88.4	40	8.9	12	2.7	424	94.2	20	4.4	6	1.3	434	96.4	9	2.0	7	1.6
	3歳児	94	71.8	30	22.9	7	5.3	118	90.1	10	7.6	3	2.3	120	91.6	6	4.6	5	3.8
	4歳児	138	94.5	4	2.7	4	2.7	140	95.9	5	3.4	1	0.7	145	99.3	1	0.7	—	—
	5歳児	166	96.0	6	3.5	1	0.6	166	96.0	5	2.9	2	1.2	169	97.7	2	1.2	2	1.2
火遊び	総数	403	89.6	34	7.6	13	2.9	430	95.6	14	3.1	6	1.3	433	96.2	12	2.7	5	1.1
	3歳児	101	77.1	18	13.7	12	9.2	114	87.0	13	9.9	4	3.1	120	91.6	8	6.1	3	2.3
	4歳児	138	94.5	7	4.8	1	0.7	144	98.6	1	0.7	1	0.7	144	98.6	2	1.4	—	—
	5歳児	164	94.8	9	5.2	—	—	172	99.4	—	—	1	0.6	169	97.7	2	1.2	2	1.2
パジャマ	総数	197	43.8	221	49.1	32	7.1	405	90.0	33	7.3	12	2.7	410	91.1	23	5.1	17	3.8
	3歳児	57	43.5	57	43.5	17	13.0	111	84.7	13	9.9	7	5.3	110	84.0	13	9.9	8	6.1
	4歳児	60	41.1	76	52.1	10	6.8	133	91.1	9	6.2	4	2.7	136	93.2	6	4.1	4	2.7
	5歳児	80	46.2	88	50.9	5	2.9	161	93.1	11	6.4	1	0.6	164	94.8	4	2.3	5	2.9

		指導前						指導後						指導1カ月後					
		正解		不正解		不明		正解		不正解		不明		正解		不正解		不明	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
カップラーメン	総数	413	91.8	32	7.1	5	1.1	433	96.2	13	2.9	4	0.9	440	97.8	4	0.9	6	1.3
	3歳児	118	90.1	9	6.9	4	3.1	123	93.9	4	3.1	4	3.1	126	96.2	1	0.8	4	3.1
	4歳児	133	91.1	13	8.9	—	—	141	96.6	5	3.4	—	—	145	99.3	1	0.7	—	—
	5歳児	162	93.6	10	5.8	1	0.6	169	97.7	4	2.3	—	—	169	97.7	2	1.2	2	1.2
やかん	総数	416	92.4	29	6.4	5	1.1	440	97.8	6	1.3	4	0.9	440	97.8	4	0.9	6	1.3
	3歳児	115	87.8	12	9.2	4	3.1	126	96.2	1	0.8	4	3.1	124	94.7	3	2.3	4	3.1
	4歳児	135	92.5	10	6.8	1	0.7	144	98.6	2	1.4	—	—	145	99.3	1	0.7	—	—
	5歳児	166	96.0	7	4.0	—	—	170	98.3	3	1.7	—	—	171	98.8	—	—	2	1.2
ストーブ	総数	404	89.8	40	8.9	6	1.3	433	96.2	12	2.7	5	1.1	437	97.1	7	1.6	6	1.3
	3歳児	103	78.6	22	16.8	6	4.6	120	91.6	6	4.6	5	3.8	122	93.1	5	3.8	4	3.1
	4歳児	135	92.5	11	7.5	—	—	143	97.9	3	2.1	—	—	145	99.3	1	0.7	—	—
	5歳児	166	96.0	7	4.0	—	—	170	98.3	3	1.7	—	—	170	98.3	1	0.6	2	1.2
ガスコンロ	総数	430	95.6	14	3.1	6	1.3	439	97.6	7	1.6	4	0.9	441	98.0	2	0.4	7	1.6
	3歳児	121	92.4	4	3.1	6	4.6	124	94.7	3	2.3	4	3.1	127	96.9	—	—	4	3.1
	4歳児	141	96.6	5	3.4	—	—	144	98.6	2	1.4	—	—	145	99.3	—	—	1	0.7
	5歳児	168	97.1	5	2.9	—	—	171	98.8	2	1.2	—	—	169	97.7	2	1.2	2	1.2
アイロン	総数	409	90.9	35	7.8	6	1.3	428	95.1	18	4.0	4	0.9	434	96.4	8	1.8	8	1.8
	3歳児	108	82.4	17	13.0	6	4.6	116	88.5	11	8.4	4	3.1	122	93.1	5	3.8	4	3.1
	4歳児	135	92.5	11	7.5	—	—	142	97.3	4	2.7	—	—	144	98.6	—	—	2	1.4
	5歳児	166	96.0	7	4.0	—	—	170	98.3	3	1.7	—	—	168	97.1	3	1.7	2	1.2
ポットとカップ	総数	407	90.4	38	8.4	5	1.1	432	96.0	14	3.1	4	0.9	430	95.6	12	2.7	8	1.8
	3歳児	113	86.3	13	9.9	5	3.8	120	91.6	7	5.3	4	3.1	122	93.1	5	3.8	4	3.1
	4歳児	129	88.4	17	11.6	—	—	142	97.3	4	2.7	—	—	141	96.6	3	2.1	2	1.4
	5歳児	165	95.4	8	4.6	—	—	170	98.3	3	1.7	—	—	167	96.5	4	2.3	2	1.2

3歳児クラスN＝131，4歳児クラスN＝146，5歳児クラスN＝173，総数N＝450

表２　３歳児クラス（N=131）

	指導前 正解者数	指導前 (%)	指導後 正解者数	指導後 (%)	指導1カ月後 正解者数	指導1カ月後 (%)
車に乗るとき	93	(71.0)	121	(92.4)	124	(94.7)
横断歩道	104	(79.4)	121	(92.4)	122	(93.1)
青信号	109	(83.2)	122	(93.1)	125	(95.4)
すべり台	77	(58.8)	107	(81.7)	115	(87.8)
ブランコ	98	(74.8)	115	(87.8)	121	(92.4)
ボール遊び	86	(65.6)	115	(87.8)	123	(93.9)
水遊び	94	(71.8)	116	(88.5)	121	(92.4)
ベランダ	117	(89.3)	122	(93.1)	125	(95.4)
おやつ	94	(71.8)	118	(90.1)	120	(91.6)
火遊び	101	(77.1)	114	(87.0)	120	(91.6)
パジャマ	57	(43.5)	111	(84.7)	110	(84.0)

車に乗るとき	**	NS
横断歩道	**	NS
青信号	*	NS
すべり台	**	NS
ブランコ	**	NS
ボール遊び	**	NS
水遊び	**	NS
ベランダ	NS	NS
おやつ	**	NS
火遊び	*	NS
パジャマ	**	NS

*　p<0.05

**　P<0.01

NS　有意差なし

表３　４歳児クラス（N=146）

	指導前 正解者数	指導前 (%)	指導後 正解者数	指導後 (%)	指導1カ月後 正解者数	指導1カ月後 (%)
車に乗るとき	122	(83.6)	138	(94.5)	145	(99.3)
横断歩道	143	(97.9)	139	(95.2)	144	(98.6)
青信号	142	(97.3)	142	(97.3)	144	(98.6)
すべり台	118	(80.8)	141	(96.6)	140	(95.9)
ブランコ	138	(94.5)	143	(97.9)	142	(97.3)
ボール遊び	134	(91.8)	135	(92.5)	143	(97.9)
水遊び	122	(83.6)	141	(96.6)	143	(97.9)
ベランダ	141	(96.6)	143	(97.9)	140	(95.9)
おやつ	138	(94.5)	140	(95.9)	145	(99.3)
火遊び	138	(94.5)	144	(98.6)	144	(98.6)
パジャマ	60	(41.1)	133	(91.1)	136	(93.2)

		指導前－指導後	指導後－指導1カ月後	指導前－指導1カ月後
車に乗るとき		**	*	**
横断歩道		NS	NS	NS
青信号		NS	NS	NS
すべり台		**	NS	**
ブランコ		NS	NS	NS
ボール遊び		NS	NS	*
水遊び		**	NS	**
ベランダ		NS	NS	NS
おやつ		NS	NS	*
火遊び		NS	NS	NS
パジャマ		**	NS	**

*　$p<0.05$

**　$P<0.01$

NS　有意差なし

表４　５歳児クラス（N=173）

	指導前 正解者数	指導前 (%)	指導後 正解者数	指導後 (%)	指導1カ月後 正解者数	指導1カ月後 (%)
車に乗るとき	156	(90.2)	170	(98.3)	169	(97.7)
横断歩道	171	(98.8)	173	(100.0)	169	(97.7)
青信号	172	(99.4)	173	(100.0)	167	(96.5)
すべり台	139	(80.3)	168	(97.1)	164	(94.8)
ブランコ	165	(95.4)	169	(97.7)	168	(97.1)
ボール遊び	163	(94.2)	170	(98.3)	167	(96.5)
水遊び	159	(91.9)	169	(97.7)	168	(97.1)
ベランダ	171	(98.8)	172	(99.4)	170	(98.3)
おやつ	166	(96.0)	166	(96.0)	169	(97.7)
火遊び	164	(94.8)	172	(99.4)	169	(97.7)
パジャマ	80	(46.2)	161	(93.1)	164	(94.8)

車に乗るとき	**	NS	**
横断歩道	NS	NS	NS
青信号	NS	*	NS
すべり台	**	NS	**
ブランコ	NS	NS	NS
ボール遊び	NS	NS	NS
水遊び	*	NS	NS
ベランダ	NS	NS	NS
おやつ	NS	NS	NS
火遊び	*	NS	NS
パジャマ	**	NS	**

*　$p<0.05$

**　$P<0.01$

NS　有意差なし

表５　総数（N=450）

	指導前 正解者数	指導前 (%)	指導後 正解者数	指導後 (%)	指導1カ月後 正解者数	指導1カ月後 (%)
車に乗るとき	371	(82.4)	429	(95.3)	438	(97.3)
横断歩道	418	(92.9)	433	(96.2)	435	(96.7)
青信号	423	(94.0)	438	(97.3)	436	(96.9)
すべり台	334	(74.2)	416	(92.4)	419	(93.1)
ブランコ	401	(89.1)	427	(94.9)	431	(95.8)
ボール遊び	383	(85.1)	420	(93.3)	433	(96.2)
水遊び	375	(83.3)	426	(94.7)	432	(96.0)
ベランダ	429	(95.3)	437	(97.1)	435	(96.7)
おやつ	398	(88.4)	424	(94.2)	434	(96.4)
火遊び	403	(89.6)	430	(95.6)	433	(96.2)
パジャマ	197	(43.8)	405	(90.0)	410	(91.1)

車に乗るとき	**	NS
	**	
横断歩道	*	NS
	*	
青信号	*	NS
	*	
すべり台	**	NS
	**	
ブランコ	**	NS
	**	
ボール遊び	**	NS
	**	
水遊び	**	NS
	**	
ベランダ	NS	NS
	NS	
おやつ	**	NS
	**	
火遊び	**	NS
	**	
パジャマ	**	NS
	**	

*　$p<0.05$

**　$P<0.01$

NS　有意差なし

表6　子どもの興味

	3歳児クラス		4歳児クラス		5歳児クラス		総数	
大変興味があった	4	(33.3)	5	(33.3)	4	(28.6)	13	(31.7)
興味があった	8	(66.6)	10	(66.0)	10	(71.4)	28	(68.3)
あまり興味がなかった	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
まったく興味がなかった	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
総数	12	(100.0)	15	(100.0)	14	(100.0)	41	(100.0)

(　) %

表7　安全教育の指導のしやすさ

	3歳児クラス		4歳児クラス		5歳児クラス		総数	
大変指導しやすかった	1	(8.3)	1	(6.7)	3	(21.4)	5	(12.2)
指導しやすかった	8	(66.6)	11	(73.3)	10	(71.4)	29	(70.7)
指導しにくかった	2	(16.7)	3	(20.0)	1	(7.1)	6	(14.6)
不明	1	(8.3)	0	(0.0)	0	(0.0)	1	(2.4)
総数	12	(100.0)	15	(100.0)	14	(100.0)	41	(100.0)

(　) %

厚生労働科学研究補助金（子ども家庭総合研究事業）
分担研究報告書

子どもの事故防止と市町村への事故対策支援に関する研究

子どもを事故で亡くした保護者への精神的サポートに関する検討

研究協力者　内山　有子　国立保健医療科学院生涯保健部
石井　博子　国立保健医療科学院生涯保健部
亀井美登里　国立保健医療科学院生涯保健部
主任研究者　田中　哲郎　国立保健医療科学院生涯保健部

研究要旨：現在の日本では交通事故で家族を亡くした遺族への民間サポート団体や、SIDS 家族の会など都道府県でのサポート事業があり、これらの原因で子どもを亡くした家族への精神的サポートが実施されているが、事故全般についての精神的サポートの実態は明らかではない。そこで、事故で子どもを亡くした保護者に対する精神的サポートの現状を知るために４７都道府県の健康福祉課母子保健担当者にアンケート調査を行った。その結果、病気で子どもを亡くした家族に対する精神的サポートは回答のあった 42 都府県のうち 10 都府県（23.8%）、不慮の事故で子どもを亡くした家族に対する精神的サポートは 7 都府県（16.7%）でしか行われていなかった。しかし、子どもを事故で亡くした家族への精神的サポートの必要性については、必要ありと考える担当者が 39 名（92.9%）おり、どのような機関が担当するのが望ましいかとの問いに対しては民間のサポート団体、カウンセリング団体、保健所、保健センターなどがあげられていた。また、サポートの形式は SIDS などと一緒のサポートシステムが 26 名（61.9%）、事故独自のサポートシステムが 8 名（19.0%）であった。今後は事故の防止対策とともに、不幸にも事故で子どもを失った家族への心のサポートも考慮していく必要があると考えらえた。

目的

現在の日本では「全国交通事故遺族の会」など交通事故で家族を亡くした遺族への民間サポート団体や、SIDS 家族の会など都道府県でのサポート事業があり、これらの原因で子どもを亡くした家族への精神的サポートや自助的サポートが実施されているが、事故全般についての精神的サポートの実態は明らかではない。しかし、欧米諸国を含めた数多くの文献により子どもを亡くした家族への精神的サポートの必要性がすでに認められており、今後、我が国でも事故を未然に防ぐための環境整備や事故防止教育の検討・啓発とともに、事故で子どもを亡くした家族への精神的サポートを考慮すべき必要性がある。

そこで、事故で子どもを亡くした保護者に対する精神的サポートの現状を知るために４７都道府県の健康福祉課母子保健担当者にアンケート調査を行った。

方法

平成 15 年 1 月に全国 47 都道府県の健康福祉課母子保健課担当者に、子どもを事故で亡くした保護者への精神的サポートの現状等についてのアンケートを郵送し回収した。

結果

47 都道府県のうち北海道、埼玉県、山梨県、静岡県、佐賀県を除く 42 都府県から回答を得た。回収率は 89.4%であった。

病気で子どもを亡くした家族に対する精神的サポートは 42 都府県のうち 10 都府県（23.8%）で行われており、その方法としては電話による相談が 10 都道府県のうち 9 都府県（90.0%）、訪問による相談が 9 都府県（90.0%）、窓口による相談が 7 都府県（70.0%）、家族の会などへの紹介が 7 都府県（70.0%）、専門機関への紹介が 6 都府県（60.0%）などであった（表 1）。また、これらのサポート事業の主な担当者は保健師が 10 都府県（100.0%）、医師が 1 都府県（10.0%）、臨床心理士が 1 都府県（10.0%）であった（表 2）。対象疾患は SIDS が 7 都府県（70.0%）、遺伝子疾患が 4 都府県（40.0%）、流産が 2 都府県（20.0%）、白血病が 2 都府県（20.0%）であった（表 3）。

不慮の事故で子どもを亡くした家族に対する精神的サポートは 42 都府県のうち 7 都府県

(16.7%) で行われており、その方法としては電話による相談が 7 都道府県のうち 6 都府県 (85.7%)、訪問による相談が 5 都府県 (71.4%)、窓口による相談が 5 都府県 (71.4%)、専門機関への紹介が 5 都府県 (71.4%)、家族の会などへの紹介が 4 都府県 (57.1%)、などであった (表 4)。また、これらのサポート事業の主な担当者は保健師が 7 都府県であった (表 5)。

子どもを事故で亡くした家族への精神的サポートの必要性については、必要ありと考える担当者が 39 名 (92.9%) (表 6) で、どのような機関が担当するのが望ましいかとの問いに対しては民間のサポート団体 29 名 (69.0%)、カウンセリング団体が 20 名 (47.6%)、保健所が 18 名 (42.9%)、保健センターが 15 名 (35.7%)、病院の精神科が 11 名 (26.2%)、病院の小児科が 8 名 (19.0%) などであった (表 7)。

また、どのような形のサポートシステムが望ましいかとの問いに対しては SIDS などと一緒のサポートシステムが 26 名 (61.9%)、事故独自のサポートシステムが 8 名 (19.0%) であった (表 8)。

精神的サポートを目的として民間団体や医療機関と連携をとっているかとの問いに対して、何らかの連携をとっている都府県は 4 都府県 (9.5%) のみであった。

考察

現在、病気で子どもを亡くした家族に対する精神的サポートを行っているのは回答のあった 42 都道府県中 10 都道府県、事故で子どもを亡くした家族対する精神的サポートを行っているのは 7 都道府県であり、都道府県単位でのサポートはまだ十分行われていないことが分かった。

しかし、本調査の回答者の 9 割以上がこのような精神的サポートの必要性があると回答しており、また、どのような機関が担当するのが望ましいかとの問に対しては、民間のサポート団体やカウンセリング団体をあげていることより、今後、このような機関が主体となり都道府県との連携を取り合いながらサポート活動ができるような方策を構築する必要性があると思われた。

また、その際に約 6 割の回答者が事故と SIDS などをまとめて一緒のサポートシステムを作ることを望んでいたが、窓口は一緒でもその後の個別相談はそれぞれの背景に基づき行うことが望ましいと回答していたことより、それぞれの自助グループなどとりまとめ、背景に応じて紹介できるようなシステムも併せて構築することが望ましいと思われた。

表1. 病気で子どもを亡くした家族へのサポートをどのような形で行っているか

	回答数	%
訪問による相談	9	90.0
電話による相談	9	90.0
家族の会などへの紹介	7	70.0
窓口による相談	7	70.0
専門医療機関への紹介	6	60.0
カウンセラーへの紹介	3	30.0
その他	1	10.0
計	10	100.0

表2. 病気で子どもを亡くした家族へのサポート担当者

	回答数	%
保健師	10	100.0
医師	1	10.0
臨床心理士	1	10.0
助産師	0	0.0
一般事務職	0	0.0
その他	1	10.0
計	10	100.0

表3. 対象疾患

	回答数	%
SIDS	7	70.0
遺伝子疾患	4	40.0
流産	2	20.0
白血病	2	20.0
その他	8	80.0
計	10	100.0

表4. 事故で子どもを亡くした家族へのサポートをどのような形で行っているか

	回答数	%
電話による相談	6	85.7
訪問による相談	5	71.4
専門医療機関への紹介	5	71.4
窓口による相談	5	71.4
家族の会などへの紹介	4	57.1
カウンセラーへの紹介	3	42.9
計	7	100.0

表5. 事故で子どもを亡くした家族へのサポート担当者

	回答数	%
保健師	7	100.0
医師	0	0.0
臨床心理士	0	0.0
助産師	0	0.0
一般事務職	0	0.0
その他	1	14.3
計	7	100.0

表6. 子どもを事故でなくした家族への精神的サポートの必要性

	回答数	%
必要あり	39	92.9
必要なし	0	0.0
その他	3	7.1
計	42	100.0

表7. どのような機関が担当するのが望ましいか

	回答数	%
民間のサポート団体	29	69.0
カウンセリング団体	20	47.6
保健所	18	42.9
保健センター	15	35.7
病院の精神科	11	26.2
病院の小児科	8	19.0
その他	6	14.3
計	42	100.0

表8. どのような形のサポートシステムが望ましいか

	回答数	%
SIDSなどと一緒のシステム	26	61.9
事故独自のシステム	8	19.0
その他	5	11.9
計	42	100.0

厚生労働科学研究補助金（子ども家庭総合研究事業）
分担研究報告書

子どもの事故防止と市町村への事故対策支援に関する研究

子ども事故防止センターのあり方に関するアンケート調査結果について

分担研究者　長村敏生　京都第二赤十字病院小児科副部長
滑沢伸幸　京都第二赤十字病院小児科部長
澤田　淳　京都第二赤十字病院院長

研究要旨：2004年6月に子ども事故防止センターを開設予定の京都市内の小児医療および小児保健関係者 1,180 名に対してアンケート調査を実施した。81.5%は事故が子どもの最多死因であるのを知っており、78.2%はセンター開設を歓迎し、73.8%は開設後訪ねたいと答えていた。センターの活動内容として 40%以上に支持されたのは情報提供活動、指導マニュアル作成、指導者の派遣、事故の実態調査、応急手当の講習会であった。情報提供の方法としては半数以上の人がマスメディア（テレビ、新聞）とインターネット（ホームページ）を挙げていた。85.0%がセンターでの定期的なイベントを必要と答え、センター活性化には種々の講習会開催が重要と思われた。センターの中心機能は調査、研究を通じて事故防止のための戦略を立案し、活動戦略の有効性を評価することにあり、防止活動の実践に際しては多くの団体、職種との連携が必要と考えられた。

A. 研究目的

わが国では 1960 年以降、1~14 歳の死因の第 1 位は不慮の事故によって占められている。現在でも乳幼児期を中心に学童期においても一定の頻度で事故が発生するという状況が続いており [1]、有効な防止対策が実施されているとは言い難い。さらに、わが国の 1~4 歳の事故死亡率は国際的にみても高く（世界最少のスウェーデンの 2.85 倍 [2]）、事故防止は小児の保健問題の中でも最優先課題の一つである。一方、欧米では既に 20～30 年以上前から事故が栄養障害や感染症にとってかわる小児の重要な健康問題であることが注目され、「事故は偶発的に起きるのではなく、しかるべき原因があって起こるものであり、病気と同様に予測可能かつ予防可能である [3]」という認識のもとに、国家レベルで系統だった取り組みが行われている。

欧米諸国に比較して、わが国の小児の事故防止対策が遅れている最大の原因は国民全体の事故に対する意識の低さにあることが指摘されている [3,4]。しかし、厚生労働省が 2000 年に策定した「健やか親子 21」の中で、今後 10 年以内の目標として事故による死亡率の半減、全家庭における事故対策の実施、全保護者への心肺蘇生法の普及、全市町村での事故対策事業の実施が掲げられたように、最近では施策面においても小児の事故防止対策の重要性が配慮されつつある。

京都市では 2004 年 6 月に京都市子ども事故防止センター（仮称）が開設される予定になっている。今回我々はセンター開設を 2 年後に控えた京都市内の小児医療および小児保健関係者に対してアンケート調査を実施したので、その結果を報告するとともに地域における事故防止センターの望ましいあり方について検討した。

B. 研究方法

対象は京都市内の医師、小児科病棟ないし外来の看護師、保健師、救急隊員、子どもに関係する公共施設に登録されているボランティアを合わせた 1,180 名であり、2002 年 3～8 月の期間にアンケート調査を実施した。医師については各医会総会、学術研究会、大学医局会において出席者にアンケート用紙を配布して協力を依頼し、記入後に回収するとともに、一部は所属部長ないし個人への用紙郵送により協力を依頼した。看護師については市内 4 病院（京都府立病院、京都第一・第二赤十字病院、京都市立病院）の病院長を通じて、保健師、救急隊員、ボランティアについては京都市保健福祉局保健衛生推進室を通じて協力を依頼した。対象の年齢は 19～89 歳にわたったが 30 歳代（25.3%）、40 歳代（26.5%）の両者で半数を占め、性差はみられなかった（男性 52%、女性 48%）。また、子どもの保護者である者の割合は 67.2%であった。回答者の職種は表 1 に示した通りで、医師が全体の 41.7%を占め、そのうち小児科医は 17.5%であった。